文化財保護センターだより

第6号　平成5年3月1日

財団法人　岐阜県文化財保護センター

〒501-02　岐阜県本巣郡穂積町牛牧宮下395　TEL(FAX)05832-7-8980

●もくじ

深沼遺跡の水田遺構……1
人材養成への一つの提言……2
発掘を終えて(深沼)……3
発掘を終えて(上開田村平)……4
トピックス……5
平成4年度発掘調査状況……6
センターだより　発掘作業に参加して(その1) 8

深沼遺跡の水田遺構

吉城郡国府町の深沼遺跡で、古代の水田跡が検出されました。現代の水田と異なり低い畦で囲まれた小区画の水田跡です。畦の区画を伴う面として確認された水田跡としては、岐阜県下では最初の発掘例です。

上の写真は、平成4年10月17日に行われた現地説明会の様子で、100余名の参加者がありました。

右の写真は発掘作業風景です。水田遺構の直上の砂を取り除きながら、ていねいに畦を検出しています。

人材養成への一つの提言

穂積町 教育長

後　藤　時　男

1　脚光をあびた40年代を回顧して

昭和40年代は、日本の文化財保護行政の中で最も脚光をあびた一時期であったように思う。高度経済成長期にあって、産業経済の急速な進展と相俟って、名神高速自動車道や中央自動車道の敷設、企業誘致や宅地造成が各地で進められた。このため、埋蔵遺跡や史跡、天然記念物等が消滅を余儀なくし、一方宅地造成等による地域の変化は、その土地に伝わる伝承文化を滅失させる結果となった。まさに、開発か保存かの論議が高まった時代であった。県議会においても文化財保護行政の在り方に関する質問が相次いだのもこの頃であった。

国は、昭和43年に文化財保護法の抜本的な大改正を行い、保護思想の普及を開始した。県は、同46年に条例改正を行い、全県的に関係者に対する文化財保護講習会を実施し、趣旨の理解と保護思想の普及に努めた。こうした時期に、私は県教委社会教育課文化室文化財係長としてその任にあったことを思いだす。私自身歴史が専門であるが、宗慶古墳・龍門寺古墳・上石津古墳群（名神高速）の発掘の経験はあるものの、その職責を全うするためには大変な努力を必要としたことを記憶する。特に、中央道の県内ルートの埋蔵遺跡調査では、多治見市から中津川までの全ルートを踏査したことは今も忘れ得ない。古窯跡・古墳・鶴ケ城跡・化石散布地など多数あって、道路公団との発掘調査・記録保存の折衝が相次いだ。こうした情勢の中で、高山陣屋の復元計画の具体化と鍬入れ、瑞浪市化石博物館の援助は忘れることができない。

以来20有余年が経過した今日、当時の文化財保存の世論の動向が環境保全問題に移行し、文化遺産に対する論議の弱さが気になるのである。

2　文化財を支える人材の養成

平成３年に岐阜県文化財保護センターが発足し、当面する開発事業にかかる発掘調査、出土品の整理、保管、管理、加えて研究活動のできる、いわば埋蔵文化財に対する学術的な総合センターとして、その成果を大いに期待する一人である。その主力は、教職員をもって構成されている現状を見るにつけ、今後考古学を専門的、体験的、体系的に身につけられた先生方が数多く輩出することは間違いない。

かって国は、昭和46年から発掘調査のできる人材養成のために平城宮跡発掘現場において研修講座を開設した。その意味からいっても考古学研究者の層を厚くし、人材養成に果たす役割りは極めて大きいと思うのである。かって岐阜県史編纂は、数多くの若手郷土史研究家を育てたことを思う時、その感一入である。

長野県は、教職員の長期研修がゆきとどいている。それぞれ専門とする研究機関へ1～2年間派遣し、専門的な力をつけさせて再び現場へ戻す方式である。岐阜県史編集の過程でこの事実を知り、まさに後継者養成の手法であり、教員自身の専門性を培う上で一つの教訓と考えたものである。

保護センターも、夏季休業中を利用した教職員の研修制度の適用を一考することも必要ではないか。ありし日を回顧しつつ、文化財保護センターの躍進を祈り断章とする。

発掘を終えて

■深沼遺跡発掘調査概要

所　在　地　吉城郡国府町西門前
発掘調査期間　平成４年８月27日
～平成４年10月22日
調査面積　1,000㎡
遺跡の立地　荒城川と十三墓岐川に挟まれた低湿地
時　　代　古代

１　はじめに

全国的には、最近水田跡の発掘調査が多く実施されていますが、岐阜県下での発掘例はまだごくわずかです。今回の発掘調査は、検出の困難な湿田の確認と、時代を決定できる遺物等の検出が目的です。

調査地点は低湿地で、「深沼」の地名通り耕作の困難であった沼田です。調査は、まず水抜きを兼ね、南北に３ｍの深さのトレンチ（試掘溝）を入れ、さらに東西に５本のトレンチを入れて地層の確認をしました。その結果重なった砂層の中に、水田跡と推定される黒褐色土層を確認しました。水田面の検出は、上部の砂層を除去しながら行いました。

２　遺構の状況

検出された水田遺構は、畦による水田区画が約２ｍ×２ｍから２ｍ×４ｍの小区画のもので、部分的なものも含めて大小40枚確認されました。畦は、幅約30cm高さ10cm程で、３か所では１ｍ前後の木材が畦に添って横たえてありました。水田面は、南北と東西に畦が直行し碁盤の目状に区画された所と曲線的な不定型な区画の所があります。

水田面直上より、多数の栃の実が検出されました。これは、秋季の洪水により水田面が埋まった時のものと推測されます。洪水をもたらしたのは、十三墓岐川と考えられます。

堆積した各層には、少量あるいは多量の葦が入っていることが確認できます。湿地帯であるこの地での水田耕作は、繁殖した葦に苦労したであろうと推測されます。

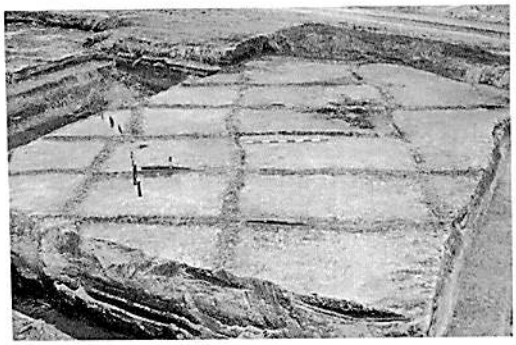
３　出土遺物について

須恵器、土師器、中近世陶磁器、砥石、打製石斧などが見つかっています。しかし、検出された水田跡の時期を決定できる遺物は確認されていません。須恵器・土師器は７世紀より11世紀にかけてのものですが、これら遺物の出土状況から見ると、検出できた水田跡は７世紀までさかのぼる可能性があると推定しています。

４　水田遺構について

過去における岐阜県内での水田跡の調査例は少なく、トレンチ調査によって地層断面より水田の存在を確認した本巣郡北方町と高山市の例と、畦の確認はできなかったが部分的に水田面を検出した吉城郡国府町の半田垣内遺跡・岩田遺跡のみです。

今回の発掘は、畦による区画を含む面として水田を検出できたこと、また古代における小区画の水田の存在を確認できた、という２点において、岐阜県内の発掘としては画期的なものと思われます。



検出された水田跡（Ｃ区）

■上開田村平遺跡発掘調査概要

所在地　揖斐郡藤橋村開田字北カイ戸

発掘調査期間　平成４年５月１日
～平成４年12月21日

調査面積　1,930㎡

遺跡の立地　揖斐川本流と支流西谷川合流地点の右岸段丘

時代　縄文・室町・江戸時代

１　遺跡の概要

この遺跡は、1986（昭和61）年、徳山ダム建設に伴う家屋撤去時に、縄文時代の石器類が採集され発見されました。今回の調査で明らかになった点は次の３点です。

第一に、縄文時代と中近世の複合遺跡であるということです。しかも、地表下50～60cmの間に、縄文時代・中近世・近代の全ての遺構・遺物が混在する遺跡でした。

第二に、縄文時代は早期末（約7,000年前）と中・後期（約5,000～3,000年前）の各時期に集落が営まれ、最も栄えた時期は中期後半から後期にかけてと推定されます。

第三は、再び上開田（旧池田村）に集落が形成されたのは、鎌倉末より室町初期以降と考えられます。

２　主な遺構

縄文時代のものは、住居跡４軒(中期～後期)・埋甕２基・土坑多数を検出しました。また、早期末の焼礫集積遺構は直径４ｍで、徳山では最大規模です。

中世の遺構は、和鏡を埋納した石組土坑、人の大臼歯数片と炭化物を検出した石組土壙墓などです。

近世以降では、江戸時代までさかのぼる厠跡（「きずな」５号参照）・祭祀的意味を持ったと伝わる積石塚・土坑のほか、明治時代以降の井戸・竈・地下式石室（芋穴）などです。

３　主な遺物

縄文時代の土器・石器類を中心に約１万点余の遺物が出土しました。

縄文土器は、大半が中期～後期のもので、加曽利Ｅ式の影響を受けた東海系の土器のほか、近畿系の醍醐式土器も出土しています。石器類は、石鏃・石錐・石斧・石錘・石剣・敲石などですが、このうちの石錘は切目石錘が多く、２基の土坑では６・８点の切目石錘がまとまって出土しました。

その他の時代のものでは、土師器や山茶碗・天目茶碗などの中近世陶器類が中心です。

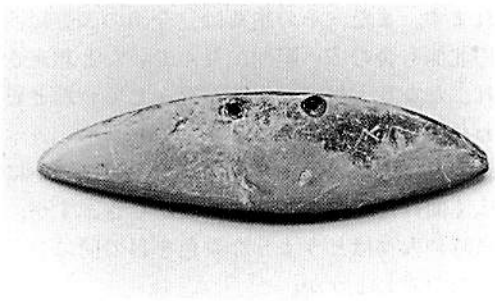
石組の埋納施設から出土した和鏡は、直径7.9cm、縁厚0.6cmの直角式縁で鏡背文様は亀紐を中心に松の葉を全体に散らし、上方に二羽の鶴を配しています。埋納時期や性格については不明です。

また、ピットより麻紐を通した「さし銭」と呼ばれる状態で、21種類87枚の古銭が出土しました。唐代の「開元通寶」９枚のほかは宋代の銭で、最も新しいものは12世紀後半に鋳造された「淳熙元寶」です。

上開田村平遺跡出土の和鏡（松鶴鏡）

トピックス

■尾崎遺跡(美濃加茂市)出土の磨製石庖丁



昨年５月より美濃加茂市蜂屋町で開始した尾崎遺跡の発掘は、調査の終りが近づき、ようやく遺跡全体の様子が明らかになってきました。尾崎遺跡は、南に広がる水田面より20mほど高い段丘上の先端にあり、美濃加茂の市街地が一望できる地に位置しています。

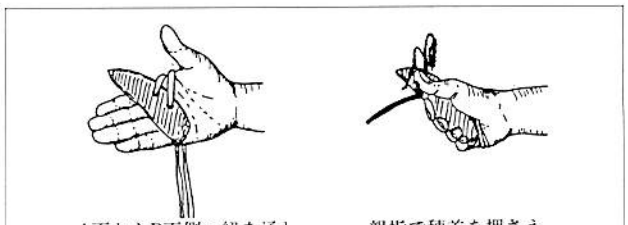
本遺跡の調査により確認された遺構は、弥生時代中期から奈良時代にかけてのそれぞれの時期に属すると考えられる竪穴住居跡約30軒（１月末現在）と、中世（鎌倉時代）に造られた何らかの区画に用いたと考えられる溝３条及び作業小屋的な建物跡などがありました。そのうち、第24号住居跡からは、弥生時代後期のものと考えられる台付甕・壺・高坏等を、ほぼ完形の状態で検出することができました。さらにこの住居跡からは、磨製の石庖丁も１点出土しました。

石庖丁の名称は、もともと明治時代に調理用の包丁として誤って命名されたものですが、現在では、２ヵ所に空けられた孔に紐を通して手にかけ、刈り入れの時にイネの穂先を摘みとった「穂つみ具」であると解釈されています。

農耕の開始と共に始まった弥生時代の遺跡からは、農耕に関連した遺物が出土します。石庖丁の出土も、県内20数ヵ所の遺跡から報告されています。特に木曽川流域の可児市・美濃加茂市・各務原市に集中しています。ただし、その多くは表面採集等によるものであり、今回のように、時代を推定できる遺物とともに出土し、その石庖丁が使用されていた時期がわかる出土例は数多くありません。過去には富加町半布里遺跡(弥生時代中期)・多治見市根本遺跡(同中期)・美濃加茂市の欠ノ上遺跡(同後期)・同市宮之脇遺跡(同後期)と数例しかなく、貴重な発見例と言えます。

本遺跡出土の磨製石庖丁を詳細に見ると、刃部、背部ともに外側に湾曲しており、形態的には、杏仁形に分類されます。大きさは最大長18.9cm、最大幅5.1cm、最大厚1.0cmで、石材は粘板岩製です。両刃に作られた刃の部分には、使用した結果と考えられる磨耗の痕がはっきりと認められます。また、刃部に相対する位置に２ヵ所両側から孔が空けられ、表面のそれぞれの孔の内側には、紐で擦れたと考えられる痕が認められます。

弥生時代の石製農具はこの石庖丁に代表されますが、本遺跡では、長野県の南信地域によく見られる有肩扇状形石器も、第８号住居跡から出土しています。この石器は平面的には大型の石匙状で、粗い調整によって刃部を作り出していて、土を掘るのに使用されたと考えられている石器です。



A面からB面側へ紐を通し、刃を立てた状態で保持する。紐は手に巻き付ける。

親指で穂首を押さえ手首を回転させて刈り取る。

「弥生時代の石器」埋蔵文化財研究会編より

石包丁の保持・使用法

今回の調査で確認された約30軒の住居は、弥生時代より奈良時代までの各時代のものが重なり合っており、詳細な検討については今後の整理に待たなければなりませんが、各時期の竪穴住居の占める位置から推定すると、各時期毎に生活空間は若干のずれがあったように考えられます。

検出された遺物総数は約４万点あります。各時代の主な出土遺物は、弥生時代の台付甕・高坏・深鉢・壺・石鏃・スクレイパー等、古墳時代のＳ字状口縁甕型土器（きずな第５号参照）・甕・高坏、須恵器の大甕・高坏・坏身・坏蓋・鍋・壺、硬玉製の勾玉等です。このうち坏蓋には「美濃国印」が刻まれたものも含まれています。

現在までの調査により、本遺跡では弥生時代中期より古墳時代の終わりころまで、ほぼ継続的に人々の生活が営まれていたと考えられます。また、その集落は、今回の調査範囲の北側も含む広い範囲に及んでいたと想定され、かなり大規模な集落が存在していたと思われます。

現在、遺跡の地より南を望むと段丘の下に広く開けた水田を見渡すことができますが、当時の人々はどうような景色を目の前にしていたのでしょうか。

●平成４年度岐阜県内埋蔵文化財発掘調査状況

平成５年１月11日現在

遺跡名	所在(調査主体)	区分	時代	主な遺構・遺物等
城之内遺跡	岐阜市(市教委)	☆	弥生～室町	弥生～平安期の住居跡、中世居館の堀跡、木簡等
東山古窯跡群	各務原市(市教委)	☆	中世	須恵器・灰釉陶器窯跡６基、ヘラ書き文字須恵器
太田１号窯跡	各務原市(市教委)	☆	平安	10世紀代の須恵器窯跡の痕跡
坊の塚古墳	各務原市(市教委)	☆	古墳	古墳の周濠範囲確認調査、葦石を持つ周堤確認
一本松遺跡	大垣市(市教委)	☆	奈良・中世	住居跡２基
今宿遺跡	大垣市(市教委)	☆	弥生末～古墳初期	柱痕検出、弥生土器・土師器・須恵器
東町田遺跡	大垣市(市教委)	☆	弥生～中世	古墳時代の住居跡３基、堀立柱建物跡４基
美濃国府跡	垂井町(町教委)	☆	奈良～鎌倉	国府の建物に付属する製鉄炉跡
上開田村平遺跡	藤橋村(県文化財保護センター)	★	縄文・中世・近世	縄文早期集石炉・中後期住居跡、中世和鏡・宋銭、近世厠跡
上原遺跡	藤橋村(県文化財保護センター)	★	縄文	集落跡、堀立柱建物跡、発掘調査中
山手宮前遺跡	藤橋村(県文化財保護センター)	★	縄文・中世・近世	宋銭出土、近世厠検出、発掘調査中
松原遺跡	関市(市教委)	☆	古墳	古墳時代前期の住居跡他
観音寺山古墳	美濃市(市教委)	☆	古墳	「新」王朝の鏡（流雲文方格規矩四神鏡）等
観音寺西山古墳他	美濃市(市教委)	☆	古墳	発掘調査中
西乙原遺跡	八幡町(県文化財保護センター)	★	中世	中世墓数基
勝更白山神社周辺遺跡	八幡町(県文化財保護センター)	★	縄文	縄文時代後期・晩期土器、発掘調査中

遺跡名	所在(調査主体)	区分	時代	主な遺構・遺物等
中筬遺跡	白鳥町(県文化財保護センター)	★	縄文	白山系火山灰地の調査、石器
尾崎遺跡	美濃加茂市(県文化財保護センター)	★	弥生中期～古墳	住居跡30数基、溝数条、石庖丁、弥生土器、須恵器、土師器等
蜂屋諸洞・大坪遺跡	美濃加茂市(県文化財保護センター)	★		発掘調査中
仲迫間遺跡	美濃加茂市(市教委)	☆		発掘調査中
宮浦遺跡	美濃加茂市(市教委)	☆	縄文・中世	発掘調査中
明和36号窯	多治見市(市教委)	☆	室町	山茶碗窯
白土原9,10号古窯跡	多治見市(県文化財保護センター)	★		調査範囲は遺跡外と確認
白土原11,12号古窯跡	多治見市(市教委)	☆	平安末期	灰釉陶器窯
小名田小滝1,7,8号古窯跡	多治見市(市教委)	☆	室町	山茶碗窯（灰原のみ検出）
平野西古窯跡	多治見市(市教委)	☆	江戸	江戸時代の登窯
西坂遺跡D地点	多治見市(市教委)	☆	旧石器	旧石器時代の遺物出土
元三ケ根1号古墳	多治見市(県文化財保護センター)	★	古墳	古墳時代後期、竪穴系横口式石室
元三ケ根3,4,5号古墳	多治見市(県文化財保護センター)	★	古墳	3号墳（片袖型横穴式石室、鉄刀）
隠居表窯跡	土岐市(市教委)	☆	中・近世	連房・大窯が重複して検出
伝西行庵跡	恵那市(市教委)	☆	中世	中世寺院の遺構
寺平遺跡	恵那市(市教委)	☆	奈良・平安	国内出土2例目の二彩浄瓶片、正家廃寺と関連する住居跡等
赤保木古墳群	高山市(市教委)	☆	古墳	発掘調査中
尾崎城跡	丹生川村(村教委)	☆	室町	中世城館跡確認調査、館の可能性強い
藤原遺跡	久々野町(県文化財保護センター)	★	縄文	縄文時代早～後期、土器・石器出土
杉崎廃寺跡	古川町(町教委)	☆	白鳳	飛騨で初めて白鳳時代の寺院跡全面発掘
宮ノ前遺跡	国府町(町教委)	☆	縄文～平安	発掘調査中
深沼遺跡	国府町(県文化財保護センター)	★	古代	畦による区画を含む古代の水田跡検出
塩屋金清神社遺跡	宮川村(村教委)	☆	縄文	縄文時代石棒製作跡
野首宮ノ前遺跡	宮川村(村教委)	☆	縄文	4つの石囲い炉を持つ住居跡、装飾石皿、獣面把手土器

※ 区分の欄は　★＝（財）岐阜県文化財保護センターの行なう発掘（文化財保護法57条の1項）
☆＝地方公共団体の行なう発掘（文化財保護法第98条の2項）

センターだより

●発掘作業に参加して

今回からは発掘作業に参加している方々の率直な感想などを順次載せていきます。

「私は発掘調査に仲間入りさせていただき3年目です。古代の遺跡と現代とは異なる文化に会えるロマンを感じます。古代の人々の生きるための考え方を思うと、今の生活はいかに物資が有り余っているかと思います。また皆様と作業をしていますと、学校時代のような楽しみを覚え一日でも休むのが惜しい気がします。」

「初めて作業に入った時、先輩の女性から土器等について説明を受けましたが、類似した石など見分けがつかず困りました。しかし、今度はどんな変わった物がでるかと胸をワクワクさせながらの毎日となりました。特に「やじり」とかいう代物を見たとき、こんな立派な物を作る古代の人は、いかに苦労したのか、現代でもそうやすやすとはできるものではないがと思いました。」

「懐かしのふるさとの発掘とあって万感胸に満つといった心境です。健康のためにも良いしもっと早くから来させていただければよかったと思います。どんな破片の土器でも、出る事が楽しみです、やじりが出たとき等は疲れが吹き飛んでしまいます。」

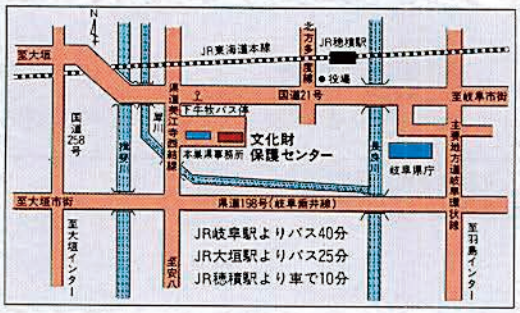
発掘作業風景（徳山）

●日誌

10.22	岐阜県博物館学芸主事大塚氏、徳山上原・上開田村平遺跡視察
28～30	徳山ダム「故郷と工事の進捗を見る会」（130名）上開田村平遺跡見学
29	整理作業員（1班）徳山山手宮前遺跡にて体験発掘
11.2	整理作業員（2班）徳山山手宮前遺跡にて体験発掘
5	岐阜大学教授梶田氏、尾崎遺跡指導調査
11	名古屋女子短大講師斎藤氏、元三ケ根古墳視察
12	徳山上原・上開田村平遺跡、記者発表
15	徳山上原・上開田村平遺跡、現地説明会開催（115名参加）
19	八幡町教育長永田氏、勝更白山神社周辺遺跡視察
24	建設省美濃加茂維持出張所林所長他9名、尾崎遺跡視察
25	白鳥町中筏遺跡調査終了
26	徳山上原・上開田村平遺跡、調査納め式開催
26	美濃加茂市蜂屋諸洞遺跡調査開始
30	徳山発掘作業員文化財保護センター見学
12.2	山手小学校長ほか3名、尾崎遺跡視察
9	可児市教育委員会長瀬氏、元三ケ根古墳視察
10	多治見市文化財センター田口・山中氏、元三ケ根古墳視察
13	八百津小学校中川氏ら2名、尾崎遺跡視察
17	愛知県埋蔵文化財センター豊田・加藤氏来所
24	愛知学院大学教授大参氏、元三ケ根古墳指導調査
25	高鷲村文化財審議会委員長山田氏来所
1.6	藤橋村教育長中川氏、同教育委員会日々野・松本氏来所
8	深沼遺跡、水田遺跡面の切り取り・土層断面剝ぎ取など、保存処理
8	岐阜市教育委員会文化課内堀氏来所
2.2	文化庁美術工芸課土肥調査官来所

■編集後記

穂積町の後藤教育長さんにはご多忙のところ貴重なご提言をいただきまして誠にありがとうございました。雪を見ることもなく暖冬のままで春を迎えるのかと思っていましたら、去る1月末には猛烈な寒波が来て、大雪に見舞われた現場はさぞかし大変だったことと思います。もうすぐ啓蟄です。滋賀県との境にある伊吹山の雪も頂上だけになってきました。裏の犀川の土手には新芽が一杯出ています。



前号でみなさんの無病息災を願った瓢箪のことを書きましたら、「それも結構だがむしろ今は一病息災の方が望ましいのではないか」との意見もありました。なるほど、時には医者を訪ねて健康管理に留意するためにも、また発掘作業員の方々の平均年齢が63才であることからも、さもありなんと思いました。一病息災で頑張りましょう。